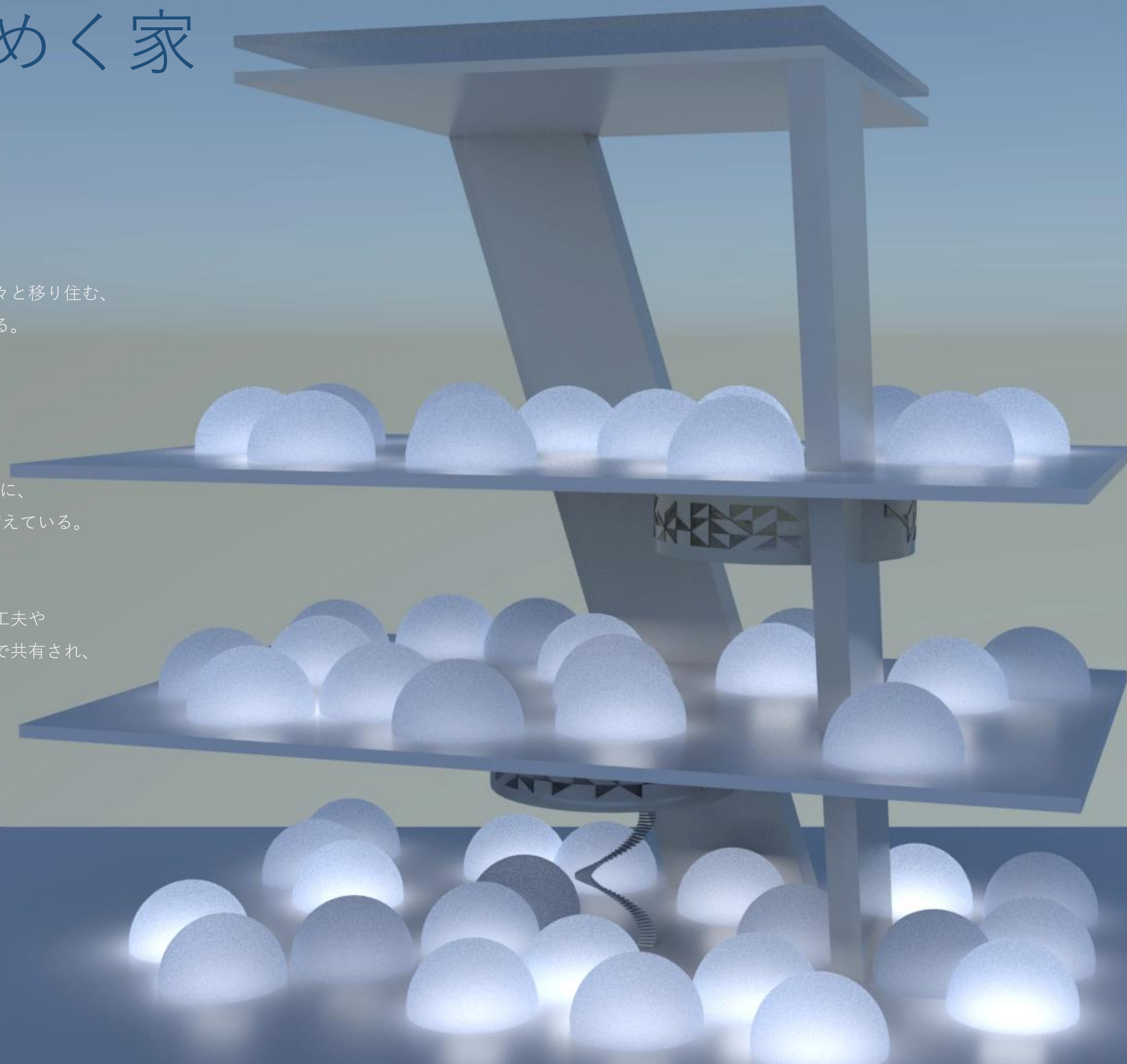


だい くのう げん 大空原の泡めく家

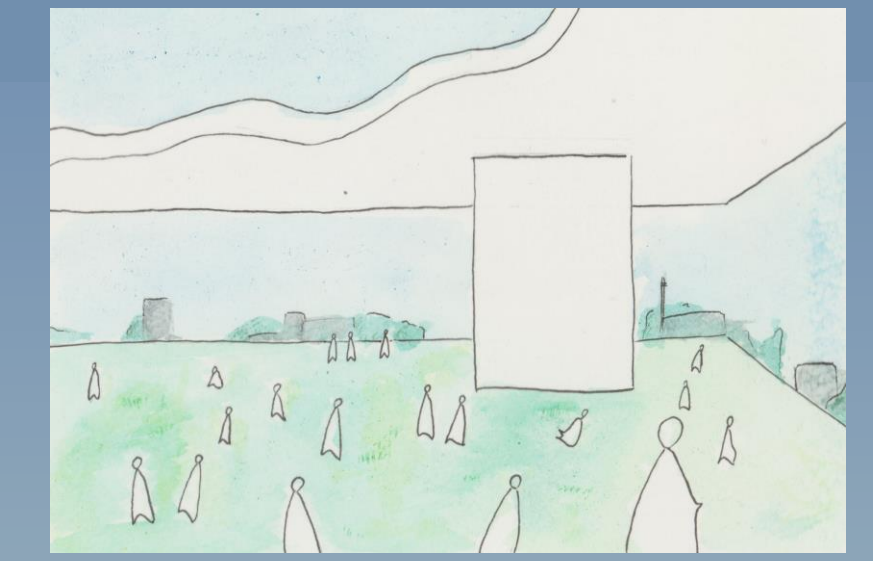
ぶかぶかと漂う泡が次第に集まり、
やがてはパチンッと消えていく。
ここでのコミュニティは泡の集合体のように
常に“形成”と“変形”を繰り返しており、
人・もの・空間との新たな出会いを求めて転々と移り住む、
狩猟採集時代の不定形な暮らしを体現している。

泡のようにまるく半透明な住戸を、
ここでは“泡室”（あわむろ）と呼ぶ。
3つのコンセプト”漂う・住まう・誘う“をもとに、
約20m²のワンルームに単一の機能だけを備えている。

限られた空間と機能で暮らすために凝らした工夫や
絞り出した知恵、新しい発見や経験は住民間で共有され、
コミュニティそのものに宿っていく。

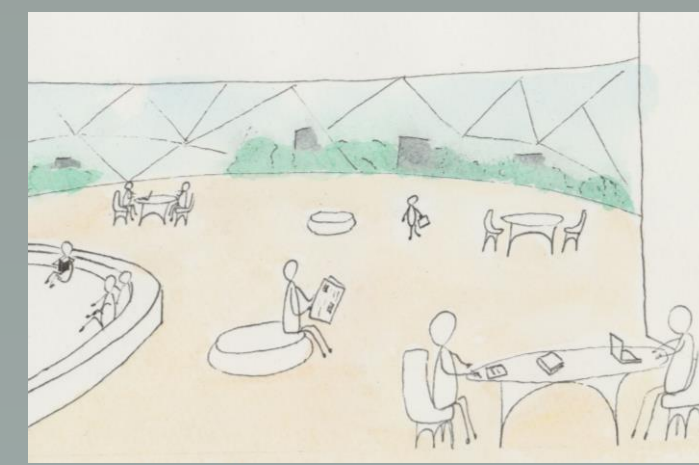


ゆめみやぐら 夢見櫓



天井にぽっかりと穴が開いた、壁にも窓にも閉ざされて
いない広場。床は芝生で、上を見上げれば空を近くに
感じる。住まいから切り離すことで日常から距離を置き、
精神を落ち着かせ、住民との交流を深める空間。夜には
住民たちが寄り集まって星空のもとで眠りにつく。

かくそう 学窓

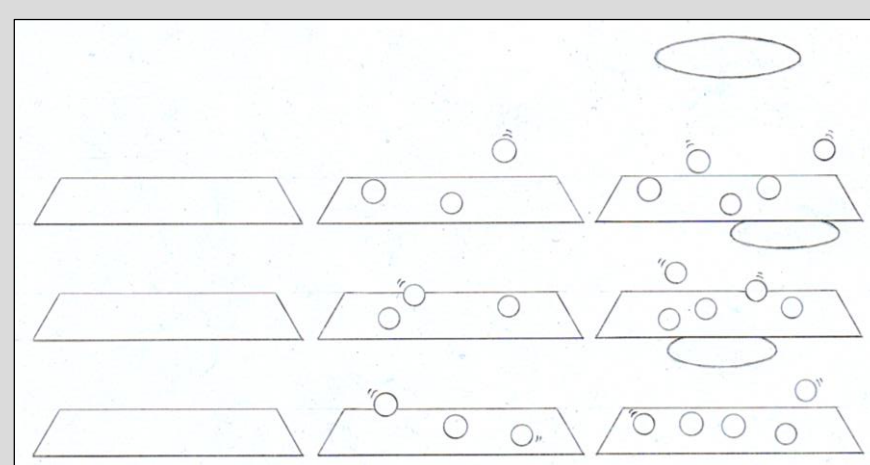
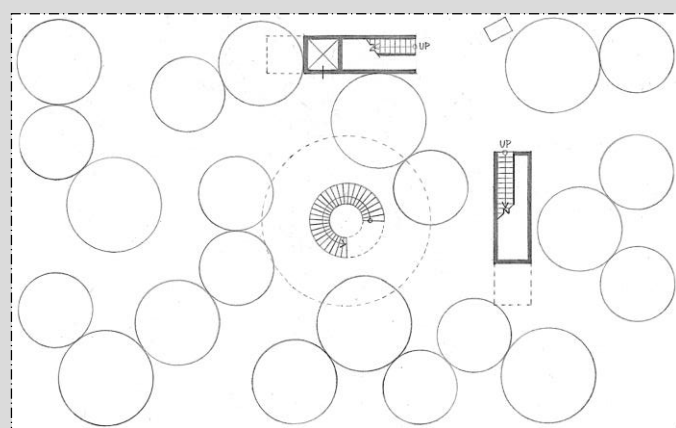
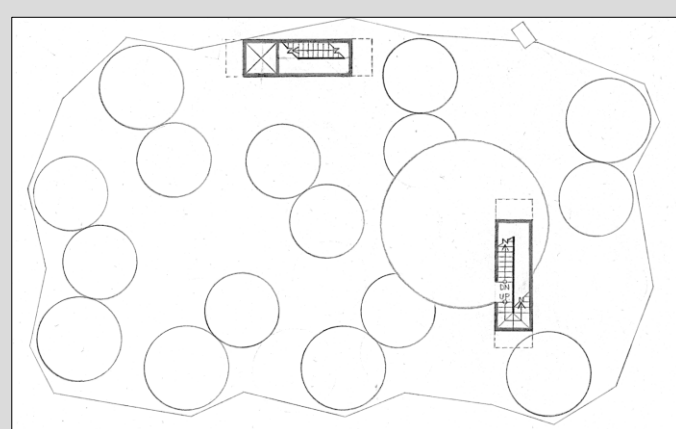
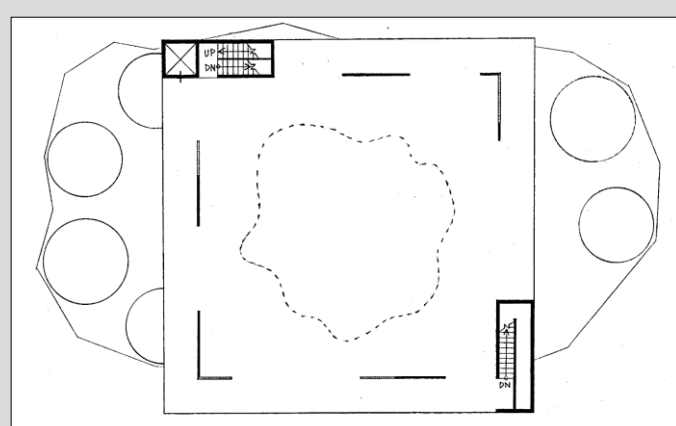


2階と3階の間にあり、窓からの景色を楽しみながら
読書や勉強、仕事などをする空間。住人が椅子や机の配置
を自由に決める。大きな背の低いソファは堅苦しい雰囲
気を作らず、リラックスした空間で学び話し合いの輪が
広がる。

かまもと 竈元



中央に丸い共同キッチンのある食堂。住人同士で料理を
振舞ったり、休日には食事会を開いたり、泡室に住む人
々の交流を促す。全面ガラス張り、中央に配置すること
で食堂からの光が住人を誘導する。



▲ ダイアグラム

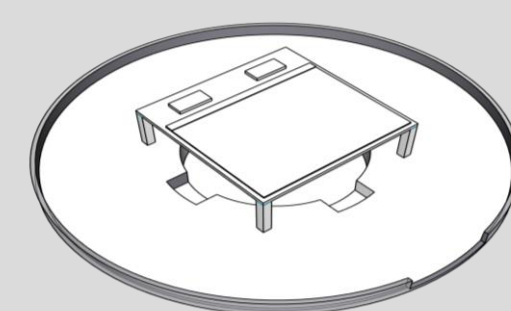
未開地に漂う泡がひとつ、またひとつと定着していく。繰り返す“形成”と“変形”のなかで、コミュニティの核となる共有空間が大空に浮かび上がっていく。

◀ 平面図・配置図（上から夢見櫓・学窓・1階）

無作為に配置された泡室の間を通り抜けると各階へと通ずる階段・E Vがあり、開けた空間には植栽やベンチなど憩いの場が設けられている。

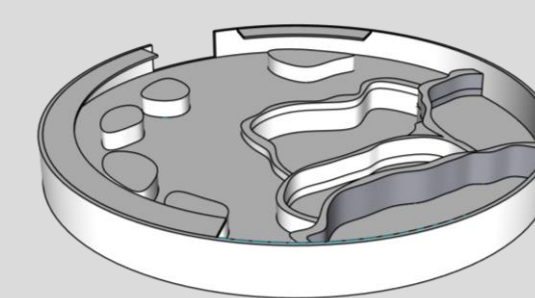
漂う泡 半径2.5m 30戸

寝るための泡
ベッド下の空間は住人の小さな秘密基地



◀ 漂う泡

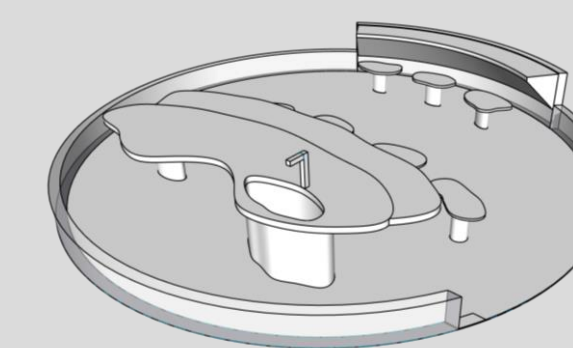
住まう泡 ▼



住まう泡 半径3m 14戸

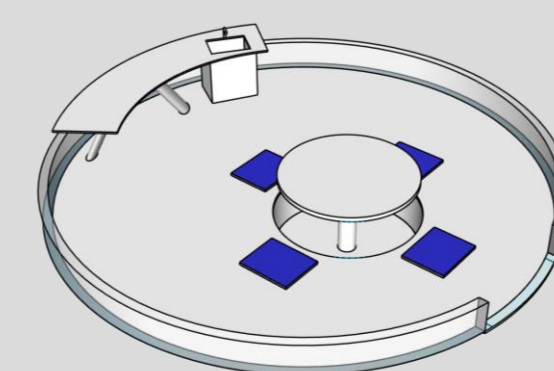
お風呂の泡
4つの違う浴槽で身も心もリラックス

誘う泡（屋台）▶

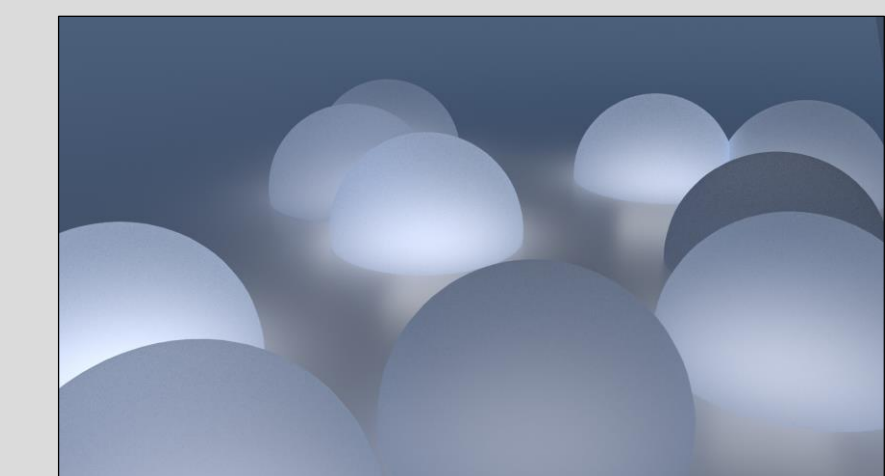


誘う泡 半径2.8m 6戸

住人主催の食の泡
誘い誘われの食事会が開かれる

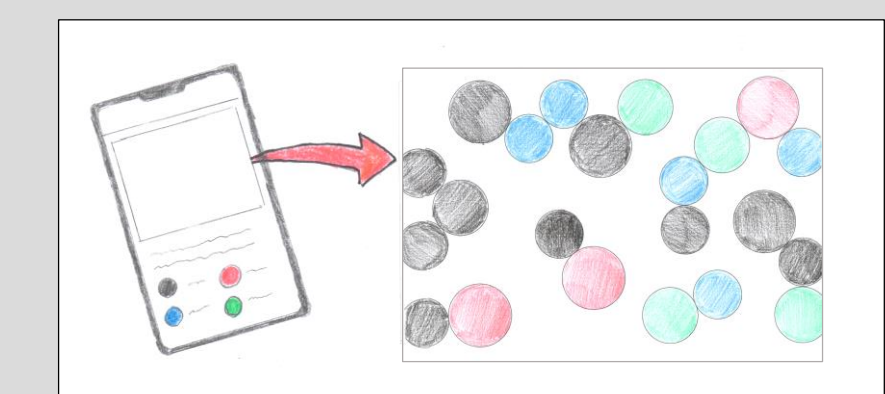


◀ 誘う泡（和）



◀ 泡室から漏れる光

泡室の光が互いを照らし合うことで、人の存在を知覚して温もりを感じられる。



◀ 予約システム

ホームページからその日利用する泡室を選択する。翌日12時を退室の時間にすることで、他の泡室への移動を促す。